

## 第9回定例理事会議事録

日時 2025年3月13日(木)11時~12時  
議題

### 報告事項

- 1) 会計報告：別紙の通り
- 2) 国際ロータリー為替レート：150円/\$
- 3) 3~5月例会スケジュール：別紙記載、4月国際奉仕フォーラムは国際奉仕委員が主体的に対応
- 4) こども音楽フェスティバル：開催時間は参加人数次第で調整し、直前まで参加者増に努力、役割分担等はメールにて対応し当日迄情報共有を図る、廣内会員から歯ブラシを景品対応頂く
- 5) 週報内製化検討状況：編集委託先へ説明済み、内製化可能か引き続き検討
- 6) 事務所契約更新：若干の費用増加で2年の再契約
- 6) その他：HP掲載を周知

### 審議事項

- 1) 細則への会長代行順位追記：6月総会承認し次年度計画書に記載
- 2) 合同例会準備：司会は会員に依頼、卓話者控え室不要
- 3) その他：大船渡大規模山林火災支援金は5万。ニコニコより対応

## 会員増強フォーラム

長尾益男

会員増強は当クラブの喫緊の課題で、会員の皆様が少しでも会員増強に力を尽くしていただきたいと思ひます。その会員増強で二つの提案をさせていただきます

- 1) 2月20日の例会内クラブフォーラムでロータリー研修会を開催しました。その中で、会員がロータリーへのリテラシー(知識、理解、活用能力)をアップさせることが重要だとお話しました。皆様が友人や仕事関係の方へ正確にそして楽しくロータリーのコトを話せることにより、彼らに少しでもロータリーに興味を持っていただき、入会に繋がる会員増強に役立つものと思ひます。
- 2) 今はインターネットの時代そしてSNSの時代です。

ロータリーのこと、当クラブのことを広く一般の人に知れ渡り、興味を持ってもらうことが重要です。当クラブの合併時に新しいホームページをスタートしましたが、まだその認知度は低く、外部からのアプローチは少ないです。

ホームページの充実とインスタグラムかフェイスブックを新設して、特に若い方々の会員増強につなげる必要があります。

佐藤美枝子

会員増強については、皆さんから多々の工夫の意見がありました。

クラブ外に対してのアピールという事ですが、私はクラブ内での工夫をお話します。

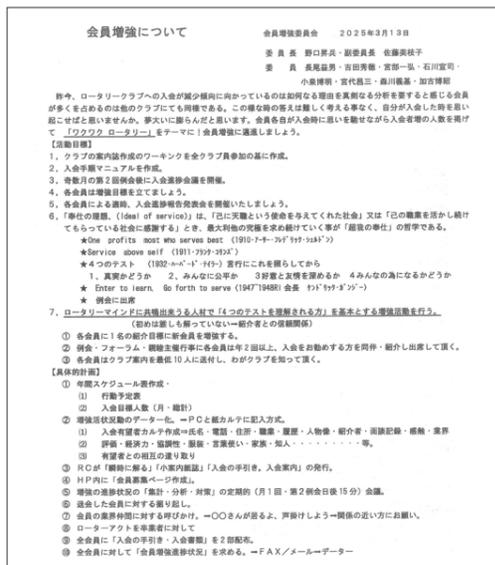
まずゲストがきたら

- 1) 受け付けでの印象が大切、にこやかに挨拶と席への誘導。
- 2) 卓話の充実とアナウンス(月始めに卓話者と内容の周知をする)
- 3) 卓話内容を外にアピールして、ゲストを集める。
- 4) クラブの奉仕活動のアイデアを、皆で考えて実行する。

要するに目的は、例会の魅力を最大限アピールして、参加してよかったと思える例会にする。

小泉博明

不易と流行、伝統と革新という相矛盾するものを、どのように調整し超克し、継続性をもって、会員増強に邁進するかが課題であると思ひます。また、笑顔溢れる当クラブの魅力を、HPをはじめ効率よく発信するかが肝要である。



# Weekly Report



会長：佐藤久雄 幹事：高木義男 RI会長：ステファニーA.アーチック 第2580地区ガバナー：石川彌八郎

## 本日の例会

3月27日(木)12:30~13:30

卓話：「税務行政の現状と課題」

卓話：水上 勝弘様

紹介者：鈴木 孝雄会員

## 次回の例会

4月3日(木)12:30~13:30

会長エレクト方針 榎原一久次年度会長

## 3月13日 例会報告

司会 加古会員  
開会点鐘 佐藤会長  
ロータリーソング・としま 未来へ  
ソングリーダー 有我会員

☆会員総数 33名  
☆出席規定適用者数 27名  
★本日の出席者総数 27名  
★免除者出席数 5名  
★本日の出席率 84.37%

☆ゲスト

外川 裕樹様 佐藤(久)会員ゲスト



ソングリーダー 有我会員  
「としま 未来へ」を先導して頂きました。

### 【名著を読む】

## 神谷美恵子『生きがいについて』

精神科医の神谷は、ハンセン病者の療養所、長島愛生園で医師として勤務し、精神的なケアを行った。その経験をもとに、「生きがい」とは、愛、勇気、信頼、喜び、希望など、心の充実した状態にあり、人々のために貢献する使命感を持つことにあるとした。(小泉博明)

## 会長報告

1. としまこども音楽フェスティバル募集状況につきまして広報掲載等で広く知って戴いた様ですが、平日の実施ということで引率する父兄の都合で参加者を集めるのに苦戦しています。何とか30名程度集まる見通しがたちました。会員の皆様には、こども連れでなくても是非ご参加ください。

## 幹事報告

1. 本日受付でお渡しした菓子は、先週の例会で東京福生ロータリークラブから戴いたものです。
2. 岩手県大船渡市で起きた山林火災では、山林の焼失だけでなく210棟の住宅被害や、漁協等の共同施設も全焼しています。地区では支援金を送ることにし、当クラブではニコニコから5万円を送ることにいたしました。



会員増強委員会  
野口委員長 加古委員 長尾委員 佐藤(美)副委員長 宮部委員 石川委員 小泉委員 森川委員



## ニコニコ

☆指定ニコニコ  
社会奉仕委員会 小泉会員 「としまこども講談教室」10校、無事に終わりました。会員の皆様には、ご支援、ご協力ありがとうございました。昼食会の残金を指定ニコニコにいたします。

本日の合計額：5,480円  
今年度ニコニコ累計額：378,000円  
今年度指定ニコニコ累計額：40,480円  
12/19例会オークション合計額：47,000円

## としまこども講談教室を行って

入門年数の若い順に 宝井琴人（前座）、宝井小琴（前座）、宝井琴鶴（真打）

### 宝井 琴人

今回の講談教室を通して感じたことが、大きく2つあります。

まず、学校によって、全体的に元気な児童が多い学校もあれば、逆に比較のおとなしい児童が多い学校もあること、それによりどうすれば伝わりやすくなるかをその場で考える必要があると実感しました。私自身の普段の講談の仕事においても、その日の気候やお客様の年齢層、実際に話した際の反応を見ながら、どうすれば楽しんでもらえるか考える必要があります。子供の場合、反応をストレートに示すからこそ、普段よりも繊細にそれを感じ取って調整しなければならないと思いました。この点において、講談教室は私にとって大きな学びとなりました。

もう1点、児童の取り組み方がとても積極的だ

と感じました。講談の内容についてクイズを出題するパートがあるのですが、率先して手を挙げて答える子がいたり、手を挙げるのが苦手な子たちも正解が何か話し合ったりしている姿が印象的でした。また、講談で使用する張扇を実際に叩いてもらうパートでは、どのように叩けばいい音が出るのか工夫している子が多く、真剣に取り組んでいると思いました。質問コーナーでも、答え切れないくらい多くの質問が出たり、教室の終了後も質問にくる子がいたり、熱心に学ぼうとする姿が心に残っています。

以上のように、今回の講談教室は、私にとっては普段と違うお客様に対してどう振る舞うか考えるヒントとなりました。子供たちにとっては、講談や日本の文化について学ぶきっかけになったのではないかと思います。

### 宝井 小琴

この度は貴重な機会をいただきありがとうございます

いました。

今回様々な小中学校にお伺いしましたが、学校様の雰囲気や生徒さんの学年（年代）によって取り組む題材や講師側の対策は様々でした、その度いかに生徒さん側が積極的に取り組み楽しんでくれるかを考えました。

小学校では出来る限り簡潔な内容でわかりやすく伝え、聞いてもらうばかりでなく問いを投げかけて、参加してもらうことで、体験も含め「楽しかった」と直接感想を聞くことができました。

中学校では生徒さん達の集中力や理解力を汲み取り、伝統芸能の世界（修行やネタ等）についてお話したところ、この世界に興味を持ってくれる生徒さんもおりしっかりと伝えられた印象でした。

私自身今回の経験を振り返り、普段の高座で1番大切な、聞いてくれる人にどれだけ寄り添うことができるかという課題を生徒さんに寄り添うことで勉強できましたので、この経験を活かし、今後とも精進したいと思います。

### 宝井 琴鶴

(1)今回用意したワークショップのプログラムは、15年以上にわたって各地で行い、磨き続けてきた、小中学生向けの内容である。

講談を楽しく知り、講談の技法を学ぶ。身体感覚として話芸を捉える、実践的な手法を駆使している。具体的には、張扇を使った調子の取り方、発声練習、物語を伝えるコツ、を、講師が手ほどきし、すぐに実践してみるという内容である。琴鶴が過去に、自身の師匠である琴星や、大師匠の馬琴から学んだノウハウが、ベースとなっている。

さらには、豊島区の民話2種を講談調にアレンジした台本を用意。豊島区の小中学生が、講談を学びつつ、一方で、地元話題、地元の文化をも知る機会となり、今回のプログラムの眼目となった。

使用するスライドコンテンツや、テキストはほぼ同じであるが、対象学年に応じて、下の学年には内容をかみ砕いたり、上の学年には物語の時代背景や、職業としての講師について説明したりと、変化をつけた。

豊島区の小学校では各自にクロームブックが配布されているとのことで、プリント配布の代わりにクロームブックでも可としたところ、2、3校の児童が使用した。これは講師側にとっては初の試みであったが、問題なく進めることができた。

成果として、短期間に豊島区の小中学生10校に、講談を届けることができたのは大きなことであると捉えている。学校や学年により、にぎやかであっ

たり、静かであったりと、反応にばらつきはあったが、講談の面白さや、奥深さを、くまなく伝えることができたこと、実感している。

また、各学校の先生方のご尽力・ご協力もありがたく、事前に主にメール、状況に応じて電話で打合せ、当日は担任や学年担当の先生方、また校長先生などを中心に、ワークショップをバックアップしていただいた。

(2)入門3年目の宝井小琴、2年目の宝井琴人、という同門の前座2名をほぼ全回に入れることができた。

講師側の人数を増やすと、人件費が人数分かかる。予算が決まっている中で、座長としては考えるところではあるが、同業の後輩たちに経験を積ませることを最優先にした。

その成果があり、回を重ねるごとに、2人ができることが増えていった。「他の仕事先で、同様の内容を求められた際に、としまこども講談教室での経験を元に対応できた」とは小琴の言葉である。また、琴鶴より歳の若い講師の存在は、小中学生にとって身近な存在に感じることができたのではないだろうか。

次世代の講師の教育としても、今回のとしまこども講談教室は貴重な場であった。

最後に、このような貴重な機会をいただきました、東京池袋豊島東ロータリークラブの皆様へ感謝申し上げます。

